医療的ケア児等コーディネーター支援協会の発足について

概要とその展望

感謝

医療的ケア児及びその家族に対する支援
に関する法律を作ってくださって
ありがとうございました。

31年間この瞬間を待っていました

自己紹介

保育士
人生の始まり

31年前の
医療的ケア児との
出会い

理学療法士への
チャレンジ

個別アプローチで
サポートできること
との限界が身に染
みる

31年勤めた社会福
祉法人の退職決意

医療的ケア児及び
その家族に対する
支援に関する法律

相談支援専門員と
して子どもと家族
の支援　地域創り

宮城県医療的ケア
児等相談支援セン
タープロポーザル
へチャレンジ

受託決定

県全体の医療的
ケア児支援整備へ

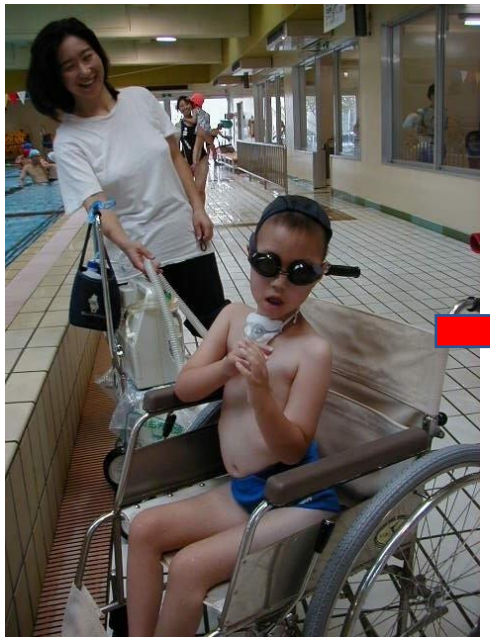
医療的ケア児と
家族に伴走して
見えたこと

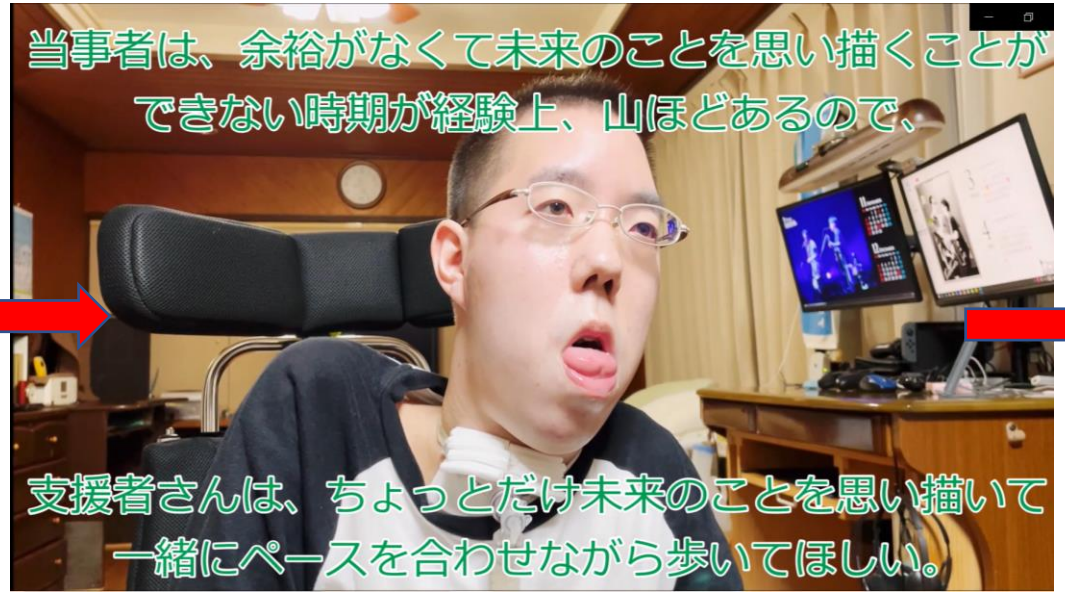
普段は太平洋で
ヒラメ漁をして
います！

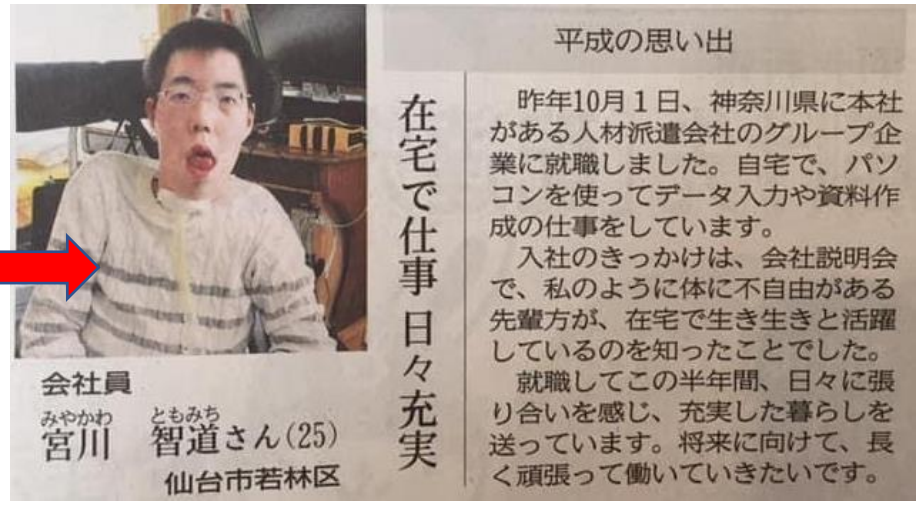
宮川さんとの出会い

20年前、先天性ミオパチーで呼吸器など様々な医療的ケアが必要な宮川さんが当時、勤務していた児等発達支援センター（当時：知的障害児通園施設）へ入園。

この子がどんな大人になるのか？この子にどんな未来が待っているのか？







平成の思い出

在宅で仕事 日々充実

昨年10月１日、神奈川県に本社がある人材派遣会社のグループ企業に就職しました。自宅で、パソコンを使ってデータ入力や資料作成の仕事をしています。

入社のきっかけは、会社説明会で、私のように体に不自由がある先輩方が、在宅で生き生きと活躍しているのを知ったことでした。

就職してこの半年間、日々に張り合いを感じ、充実した暮らしを送っています。将来に向けて、長く頑張って働いていきたいです。

会社員 宮川（みやかわ） 智道（ともみち）さん(25) 仙台市若林区

医療は大切！でも医療だけでは、この子の育ちは支えられない。友達、学び、体験や経験、地域社会など串刺しで支援をしなきゃ！と思った20年前

そして、再会した20年後彼の夢は「納税者になること」

医療的ケア児が地域で生きるということ

永田町こども未来会議の主旨

医療的ケアがある子どもは、最も多様なニーズがある子どもなのではないか？医療的ケア児を安心して育てることができる子育て環境はすべての子どもにhappyなのでは？

各都道府県の医療的ケア児支援センター予算

都道府県	令和4年度設置予算	配置人数（常勤専従・CO数）	その他の配置職員	人口規模	予算の組み立て
青森	47,820,000円	2名（相談員/看護師）	医師2（兼）看護師（兼） 事務（非専）1	122万人 （19歳以下　21万人）	
B	29,800,000円	3名(理学療法士/看護師/主任相談支援専門員)	事務員（非専）1 医師（嘱託）1	230万人 （19歳以下　38万人）	国庫補助 一般財源 基金活用
C	7,000,000円	1名(看護師) 1	医師（兼）1　事務（非）1	122万人 （19歳以下　18万人）	
三重	18,000,000円 本部750万円 支部300万円弱 重心800万円弱	1名（看護師）1	看護（兼）1 SW（兼）1 事務（非）1 医師（兼・別予算）1	174万 （19歳以下　29万人）	国庫補助 一般財源 基金
福岡	20,800,000円	2名(ソーシャルワーカー/看護師) トータルアドバイザー1	医師　地域連携課長 企画主査　事務 各1名（兼）	512万人 （19歳以下　88万人）	国庫補助 一般財源

医療的ケア児支援センター予算の立て付け
例）230万人の人口規模の県　（3名の常勤専従配置）

医療的ケア児等総合支援事業より経費補助
国1/２（700万）　都道府県1/２（普通交付税より一部補助）

医療的ケア児等総合支援事業の経費には、コーディネーター養成研修や配置事業なども含まれる。

1400万円が国の補助上限

年間予算総額2980万円

880万円/年	520万円/年	1580万円は都道府県自己負担（基金など）

医療的ケア児等コーディネーター1名配置でセンター運営した時の補助金

コーディネーター2人目以降の配置時の補助金
※都道府県における19歳以下人口が23万人に追加コーディネーター1名と決められている。19歳以下人口が38万人なので全員が医療的ケア児等コーディネーター資格を持っていても3人目の予算化がされない。

常勤専従）理学療法士・看護師・主任相談支援専門員（社会福祉士）
各1名全員医ケアCO　　嘱託）医師1名　　非常勤）事務員1名

今後の展望①

医療的ケア児

医療
モデル

患児として命をつなぐ・守る
医療は短期的・強力的に関わる必要性がある

パートナーシップ関係

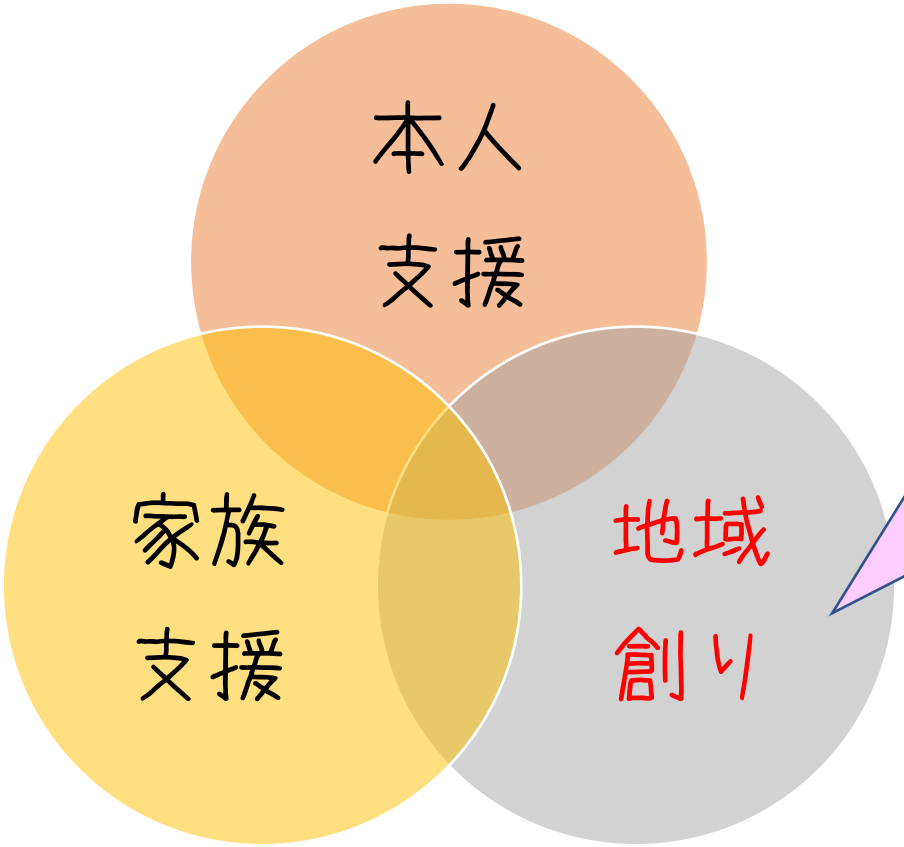
生活
モデル

こどもとしての育ちを支える
仕組みの提案ができる専門職
集団としての活動の必要性

様々な状態像に加えて医療的ケアが必要な子ども

今後の展望②

「暮らし」を支えるとは？



特に医療的ケア児の支援についてはこの3つ組がとても大切。
その中で「暮らし」を支える為には地域創りがとても重要になってくる。
ソーシャルワークができる専門集団の必要性がある。

地域創りと資源創出

小さなケアマネ

- 地域に存在する医療的ケア児等コーディネーターと主任相談支援専門員が、個別的の支援を受け、地域課題を抽出する。
- 自発的に営む自立支援協議会や圏域の協議の場で、個のニーズから圏域の地域課題の抽出や解決に臨む。

大きなケアマネ

- 圏域の地域課題から医療的ケア児等相談支援センターが、地域の人材育成を市町村や医療的ケア児等コーディネーター、主任相談支援専門員らと資源開発に取り組む。

様々な医療的ケア児支援に関心を持ち「何かできないか？」と考えている人は少なからず存在していた。適切な人材育成をしていくことによって、その地域で、より創意工夫に満ちた資源開発につながる可能性を秘めている。

一般社団法人
医療的ケア児等コーディネーター支援協会

（所在地・事務局：淑徳大学第二キャンパス）

理念

医療的ケア児等支援センター及びコーディネーター・ 支援者に関する研究・人材育成・支援環境の整備に関する事業を展開し、福祉の向上に寄与する

会員

①医療的ケア児等支援センター（16都道府県）
北海道・青森・秋田・岩手・山形・宮城・栃木・石川・愛知・三重・京都・山口・福岡・佐賀・熊本・香川
②医療的ケア児等コーディネーター
③事業所（児発・放デイ・生活介護など）
④個人会員（医師・看護師・保健師・福祉職など）

代表理事
・遠山裕湖（宮城県医療的ケア児等支援センター）
副代表理事
・岩本彰太郎（三重県医療的ケア児・者相談支援センター）
・横田信也（福岡県医療的ケア児支援センター）
・戸枝陽基（社会福祉法人　むそう）
顧問
・大塚晃（上智大学）

今後予定している事業

1．部会の運営（今年度中に開催予定）
（支援センター部会・コーディネーター部会・事業者部会・専門職部会）
2．事業所内での医療安全のしくみの構築支援
（ヒヤリハットの集積・分析・対応策の共有）
3．調査研究事業
（支援センター・コーディネーター対象）
4．各種研修事業
5．自治体研修支援
（横浜市のコーディネーター育成プログラムへのコンサルテーション）
6．市町村会議事務局業務

全国横つながりで、こどもと家族そして支援者の支援を考えていきたいと思います。
これからも、どうぞよろしくお願いいたします！